

# 破格筋 *M. obliquus abdominis externus profundus* の1例について

昭和34年7月2日 受付

信州大学医学部第二解剖学教室 (指導: 鈴木 誠教授)

嶋 崎 尚

## A Case of *M. obliquus abdominis externus profundus*

Hisashi Shimazaki

Department of Anatomy, Faculty of Medicine, Shinshu University

(Director: Prof. M. Suzuki)

### I

1955年の学生解剖実習の際に、所謂外腹斜筋の重複  
或は *M. obliquus abdominis externus profundus*  
と呼ばれるものに相当する過剰筋が両側に存在する  
1例(70才男子屍)に遭遇した。かゝる破格筋例は甚  
だしく、わが国における報告でも、僅かに杉浦(1934)  
中山・奥田(1952)の報告があるにすぎない。なかで  
も後者は本筋について詳細な考察を行つている。

筆者はこゝに1例報告の記載をしておきたい。

### II

右側: 内・外両側が区別出来る。内側のものは第12  
肋骨の先端で内下方 1.0cm のところから殆んど肉様  
に起り、外腹斜筋と内腹斜筋との間を、内側にかかる  
凹彎した弓状をなして縦走し、その末端は外側のもの  
と密着して共同の腱となり、上前腸骨棘に停止する。  
明かに筋腹と認められる部分の長さは 8.5cm で、幅  
は全長にわたつて約 0.2cm、共同の停止腱部の長さが  
1.5cm である。

外側のものは第12肋骨先端から、前者と同様に殆んど肉様に起り縦走し、前者と接するところで中間腱が存在して2腹となる。中間腱から下の部分は前者と密着して共同の停止腱となり上前腸骨棘に達す。上方の筋腹と認められる部分の長さは 5.5cm、最大幅 0.5cm で、中間腱の長さは 1.5cm、幅 0.3cm である。

下方の筋腹は長さが 2.5cm で、最大幅は約 0.3cm である。また、共同の停止腱部の長さは前者と同様 1.5cm である。

左側: 右側と同様に内・外両側のものがある。内側のものは第11肋骨と第12肋骨の先端を結ぶ線の中央から下方 1.5cm の附近より、甚だ薄い腱性膜で扇状に起り、やや下外側に斜めに、内腹斜筋と外腹斜筋の間を走り、上前腸骨棘の上方 5.0cm のところで肉様

に腸骨稜に停止する。その筋腹と認められる部分の長さは 6.0cm で、最大幅は 0.5cm である。

外側のものは第12肋骨先端から腱をもつて起り、前者と殆んど並行して走り、前者の停止部より外方に接したところで腸骨稜に停止する。その筋腹の長さは 5.0cm で、幅は全長にわたつて大体 0.2cm である。起始及び停止腱の長さは夫々 1.5cm と 1.0cm であり、筋腹から腱に移るところで、起始及び停止腱幅は細くなつている。

なお、神経支配については不明である。

また、この屍体には *M. levator scapulae* 及び *M. splenius* に破格を認めた。

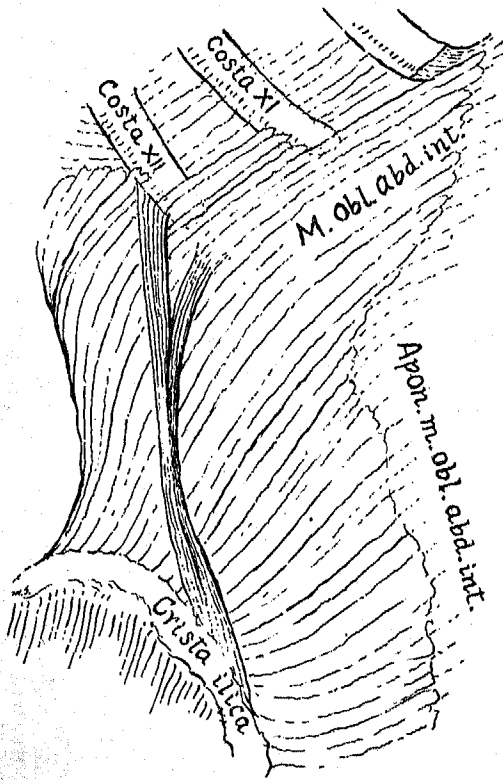
### III

この様な破格例は最初に Weitbrecht (1735) によつて記載したといわれ、以来1~2例についての報告があるが、破格としては稀なものに属する。

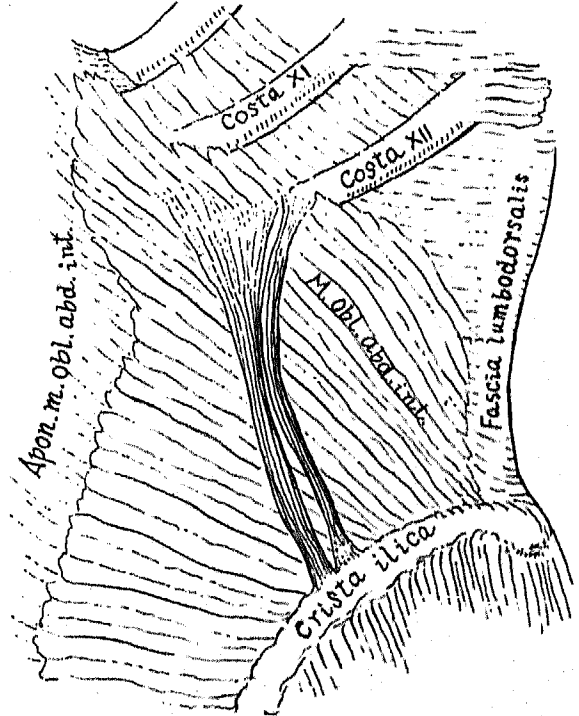
その起始は主として下位肋骨(第9~第12肋骨)附近であつて、停止は上前腸骨棘、腸骨稜、時には腹筋或はその筋膜に、又は腹直筋鞘等に附着する。本筋の発達は不良なのが普通である。

神経支配については、よく知られていないが、中山・奥田は1例において神経の進入を認め、本筋破格は食肉類等における *M. obliquus abdominis externus profundus* と相同のものであるとしている。

この様な筋には以下の如く多数の名称がある。即ち、*M. obliquus externus secundus s. accessorius* (Gruber), *M. rectus lateralis* (Testut, Le Double, Krause), *M. obl. ext. profundus s. minor* (Knot, Krause), *M. protractor arcus cruralis* (Gruber), *M. obl. abd. ext. prof.* (Kassianenko), *Fasciculi profundi musculi obliqui abdominis externi* 等である。



M. obliquus abdominis externus profundus on the right side. (No.125, ♂, 70yr.)



M. obliquus abdominis externus profundus on the left side. (No.125, ♂, 70yr.)

これら多数の名称の中、系統発生的見解から、中山・奥田は M. obliquus abdominis externus profundus の呼称を適当であろうとしている。

IV

以上のことを要約すると次の如くである。

1. 本例の左右両側に M. obliquus abdominis externus profundus と考えられる破格筋を認めた。
2. 本筋は両側とも第11~12肋骨附近から起り、重複した筋腹が左右とも大体並行して走り、右側では共同腱となり上前腸骨棘に停止し、左側は夫々腸骨稜に停止する。
3. 神経支配については明かにされなかつた。

終りにあたり、文献について種々御教示下さつた日本大学中山知雄教授に感謝の意を表す。

文 献

①Auvray: Anomalies musculaires et nervenses. Bull. Soc. anat. Paris, X, 5me Série: 223-225, 1896. ②Bogorodsky, B. W.: Der M. obliquus abdominis externus profundus beim Känguruh. Anat. Anz., 67: 229-232, 1929. ③Braus, H.:

Anatomie des Menschen. I. Bd., 3 Aufl., 137 u. 153-156, Berlin, 1954. ④Eisler, P.: Die Muskeln des Stammes. Bardeleben's Handb. d. Anat. d. Menschen, 583-584' Jena, 1912. ⑤Gruber, W.: Ein rudimentären Musc. obliquus externus abdominis secundus. Bull. Acad. Imp. Sci. St. Petersburg, 18, col.: 142, 1873. ⑥.....: Zwei neue Fälle eines rudimentären Musc. obliquus externu abdominis. Virchow's Arch., 65: 16 17, 1875. ⑦John, M.: Beobachtungen an der Bauch-u. Zwischenrippenmuskulatur des Löwen u. der Hauskatze. Anat. Anz.: 65: 145-154, 1928. ⑧Kassianenko, W.: Die M. obliquus abdominis. externus profundus beim Hunde. Anat. Anz., 64: 298-303, 1927. ⑨Knott, J. F.: Musclar Anatomies. J. Anat. and Phys., 16: 139-140, 1881. ⑩Krause, W.: Anatomische Varietäten, etc., 108, Hannover, 1880. ⑪Le Double, A. F.: Traité des variations du système musculaire de l'homme. T. I.; 317-319, Paris, 1897. ⑫Loth,

E.: Beiträge zur Anthropologie der Negerweichteile (Muskelsystem). 84, Stuttgart, 1912.

⑬Mijsberg, W. A.: Die Homologien der Brust- u. Bauchmuskeln der Primaten. Anat. Anz., 50: 121-127, 1917. ⑭Nishi, S.: Ventrale Rumpfmuskulatur (Brust- u. Bauchmuskulatur). Bolk's

Handb. d. vergl. Anat. V. Bd.: 410-415, Berlin, 1938. ⑮Rauben-Kopsch: Lehrb. u. Atlas d. Anat. d. Menschen. I. Bd., 18 Aufl., 478, Leipzig, 1952. ⑯Sugiura, R.: On a superfluous pair

of muscles accompanying the M. obliquus externus abdominis sinister. Nagoya J. Med. Sci., 8/3: 139-143, 1935. ⑰Testut, L.: Les anomalies des m. petit oblique de l'abdomen. Les anomalies musculaire chez l'homme, 167, Paris, 1884.

⑱杉浦令策: 左側腹外斜筋重複異常例, 愛知医学会誌, 41: 1949, 1934. ⑲中山知雄・奥田茂: 稀な M. obliquus abdominis externus profundus に就て, 解剖学雑誌, 27: 89-94. (その他は中山・奥田による)

⑳中山知雄・奥田茂: 稀な M. obliquus abdominis externus profundus に就て, 解剖学雑誌, 27: 89-94. (その他は中山・奥田による)

㉑中山知雄・奥田茂: 稀な M. obliquus abdominis externus profundus に就て, 解剖学雑誌, 27: 89-94. (その他は中山・奥田による)